

人間の身体はかりもの

めへ々々のみのうちよりのかりものを しらずにいてハなにもわからん(三号 137)

これは、神様のお言葉です。私たちの身体は、神様が私たち一人一人の魂に貸し与えられたかきものであり、私たちからすれば、それは神様からのかりものと言えます。

かりものであることを十分心に治めて生きることが人間としての心の遣い方、生き方の一番基本です。自分の力や能力、努力だけで生きていると思う心は、本来すべき心遣いとは言えません。

人間は、互いにたすけあい、喜びを分かち合う為に神様が創造されました。なので、貸主の目的に沿った生き方をすることが大切です。

つまりは、我が為でなく、他人様の為に身体を使うところに、人間の本当の幸せが得られるというものです。